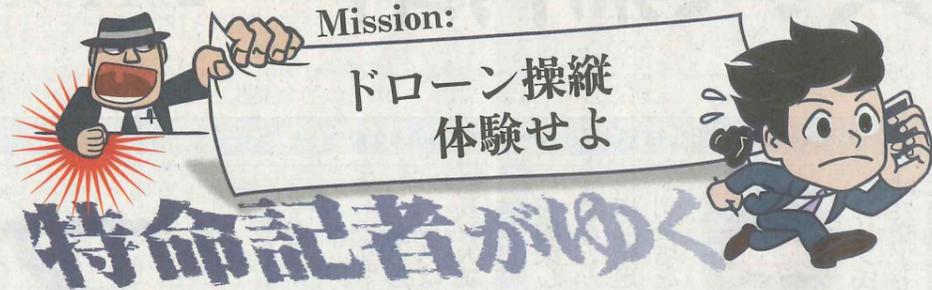


かんさい

サーチ TUE



4つのプロペラ 空中自在



①ドローンの操縦を体験する松田記者(中央)。講師の指導でコントローラーで四つのプロペラの回転を調節し、ホバリングに成功(許可を得て小型無人機で撮影) ②ドローンにプロペラを装着する受講生。事故防止には機体のメンテナンスが重要になる③ドローンを操縦するコントローラー。二つのスティックで四つのプロペラの回転を調節する(奈良県桜井市で) いずれも大久保忠司撮影



取材 ドローンは英語で「オスの蜂」の意味。本来は無人航空機を指す言葉で、軍事目的の無線操縦機として発展してきたが、2010年に仏のメーカーが複数のプロペラで飛ぶ機体を発売し、民生用として普及し始めた。全世界測位システム(GPS)を利用して

認証制度 国が検討

空中での機体の位置を一定に保つことができるようになり、従来よりも操縦がはるかに簡単になった。主に上空からの映像撮影や測量で活用され、物流や警備など様々な分野でも応用が検討されている一方、事故も相次いでいる。国は15年、航空法を一部改正して空港周辺や人口密集地での飛行を原則禁止、操縦講習などを行う民間団体の認証制度の創設を検討している。

日誌から

講習会では、前後や左右などの基本的な動かし方しか習得できなかったが、上級者になれば、斜めに動かしたり、高度を変えながらポイントを旋回させたりと、複雑な動きも可能になるらしい。ドローンのレースもあると知って映像を見ると、地面すれすれに飛行したり、時速100kmの高速度で飛んだりと迫力満点。ドローンの活躍の場はまだまだ広がりそうだ。

特命のご依頼、ご感想は〒530・8551 読売新聞大阪本社「特命記者がゆく」係か、o-mission@yomiuri.comへ。

空からの地上撮影や測量など様々な分野で活用が広がっている「ドローン」。空中を自在に飛び回る姿にオトナの子供心をくすぐられ、操縦技術を学んでみたいと講習会に足を運んだ。(松田俊輔)

1月25日、奈良県桜井市のグラウンド。大阪市内から電車と車を取り継ぎ約2時間の講習会場は、周りが畑ばかりの山あいの地だった。「本当に会場？」と不安になったが、ほかの受講者を見つけてホッとした。

講習会は一般社団法人・関西ドローン安全協議会(大阪市)の主催。日本ではドローン操縦に免許制度がなく、許可された場所なら誰でも飛ばせる。反面、落下事故が後を絶たない。同協議会など複数の民間団体が、正しい知識と経験を持つ操縦者を育てようと独自の認定制度を導入している。

「連続して飛べる時間は20分くらいです」。講師の谷口淳一さん(61)が機体を前に説明を始めた。機体は縦横各35センチ、高さ15センチで、重さは1.2kgほどの十字形。四つの先端部分にプロペラがついている。縦横15センチほどのコントローラーを使った無線操縦で、プロペラの回転をうまく調節すれば、思い通りに飛ばすことができるという。

谷口さんの指導を受けて、いよいよ操縦。コントローラーの左右2本のスティックのうち、右側は「上昇」「下降」「左右の水平移動」、左側は「前進」「後退」「横回転」を制御するのだと教わった。

「まず目の高さくらいまで上げましょう」。谷口さんの合図で右スティックを奥

に倒すと、プロペラが勢い良く回転し、機体がふわりと浮いた。「ウィーン」というモーター音が意外に大きいのに驚いた。

おそろおそろ上昇させて、身長より少し高い空中になんとかホバリングさせることができた。その時、横からの風で機体が突如、左に流された。意図しない動きに意表をつかれた。「右、左!」。谷口さんの指示で機体の姿勢を保とうとするが、指が反応しない。頭上で左右に行ったり来たりを繰り返すばかり。なかなか難しい。

次は、10秒先のコーンに機体を往復させる実習だ。機体が離れると距離感がつかみづらい。地上の機体の影から位置を推測するが、視点を地上と上空に激しく上下させなくてはならず、やりにくい。雪が積もる寒風の中での20分ほどの操縦ながら、手袋の中は汗でびしょりになった。

講習会は3日間。受講者は2日間で10時間以上の飛行経験を積み、残り1日は関連法規やメンテナンス方法などを学ぶ。筆記と実技試験に合格すると、認定証が得られる。同協議会は2015年9月から開いた講習会で、60人に認定証を授与、合格率は85%という。ちなみに受講料は23万円(税別)。

受講した奈良県内の建設会社に勤める吉田耕造さん(42)は「思ったより簡単だった。ドローンを会社で建てたビルの写真撮影に使いたい」と、手応えを感じていた。

帰り際、「実技試験受けたら受かるでしょうかと講師陣に聞いてみたが、返ってきたのは苦笑い。家で飛ばせる玩具用の小型ドローンもあるというので、ちょっと練習してみようと思った。